

防災のための5つのチェックポイント

前ページの内容のほか、地震災害の起こる事前しておくべきことを5つのチェックポイントとしてまとめましたので、ご確認ください。

①避難場所のチェック

住んでいる場所によって避難場所の指定があります。地域ごとの避難場所は、7ページをご覧ください。
大きな災害発生時には、自宅が倒壊する恐れがあるため、避難所へ避難することとなります。緊急時には連絡がつきにくくなりますので、家族の集合場所を避難所におきましましょう。また、お子さんなどにも、避難所の場所を教えてくださいましましょう。

②周辺状況のチェック

軟弱な地盤は、地震の際に被害が大きくなります。自宅のある場所の近所の状況を知り的確な被害防止対策を立てることが重要です。

③ブロック塀や石垣などの状態をチェック

老朽化したブロック塀や石垣は補修したり、生垣に変えるなどの対策をしましょう。

④火気器具のチェック

日ごろから火気器具の点検や修理を行い、周囲には燃えやすいものを置かないようにしましょう。

⑤家の中の状態チェック

廊下や部屋の出入り口には物を置かないようにしましょう。タンスや棚の上には重い物を置かないようにしましょう。落下物やガラス片などから身を守るため、寝室や居間などにスリッパなどの履物を用意しましょう。
家具や大型家電製品などが転倒しないよう金具などで固定しましょう。
非常持ち出し品を整理しておきましょう。
トイレ用などのため、風呂の水は抜かないで溜めておきましょう。

市内で想定される、地震による災害

今回の地震で最も甚大な被害をもたらしたのは、想定以上に大きな津波でした。しかし、本市を含む山梨県では、海から離れており、津波の心配はありません。では、本市においては、どのような災害が想定されるのでしょうか。

本市の地形的特徴としてあげられるのは、山林の面積が全体の85%を占め、山が深く、急傾斜で、沢がたくさんあるところです。この本市によく似た地域で、昨今大きな被害の出た地震があります。それは、平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震です。この地震では、がけ崩れや土石流が家を押し、大きな被害を出しました。

こうした被害を出さないように、県や市では土石流をくい止めるための砂防堰堤を造るなどの対策を継続して行っています。

地震に備えて、やっておくべきこと

大きな地震はいつ、どんなときにくるかわかりません。地震が起

きたときにどうするか、事前に家族など、身近な人たちと話し合い、決めておくことが大切です。また、昨年の8月号に掲載した、防災士の方のお話でも、「実際に災害が起こったと想定することが大事」とお話されていました。この部分を抜粋して紹介します。

効果的な備えは、災害が起こった場合を想定してみる

地震はいつ発生するかは分かりませんが、土砂崩れ・洪水などの災害の場合、防災マップなどによって「どこが危ない」という情報や、気象情報などで「いつごろ豪雨が降る」といった情報はある程度事前に把握することができると、情報のアンテナを高くしておくことがとても重要です。

また、「避難場所」や「避難所」の確認のほか、普段から「災害が起きたらこう逃げる」といった想定しておく事、家族分の3日分の食料品の備蓄をしておく事が重要です。また、持病などを持っている方は、「薬が切れてから病院に行く」のではなく、常に1週間分程度余裕を持って備蓄しておくことがよいと思います。

「地震を知って、地震に備える。」

貴重品類 10円玉は公衆電話用に。通帳、カード、健康保険証、運転免許証などは番号を控えたメモかコピーを用意しておくといよいでしょう。	現金 10円玉 預金通帳 印鑑 保険証 免許証
避難用具 懐中電灯は、できれば一人に一つ用意したいもの。	懐中電灯(携帯ラジオ付) 乾電池 ヘルメット、もしくは防災ずきん 厚手の手袋 毛布
生活用品 避難所生活に最低限必要なものです。赤ちゃんやお年寄り、障害のある方がいる場合など、考慮してそろえましょう。	缶切り ライターもしくはマッチ ナイフ(七徳ナイフなどが便利) 携帯用トイレ
救急用具 救急箱には、絆創膏、消毒液など。その他、ビタミン剤などのサプリメントもあるといよいでしょう。	救急箱 処方箋の控え 薬 生理用品
非常食品 最低3日間は用意しましょう。そのまま食べられるものが便利です。	乾パン 缶詰 栄養補助食品 アメ・チョコレート 飲料水
衣料品 衣類は動きやすいものを選びましょう。セーターなどの防寒具も寒い季節には役立ちます。	下着・靴下 長そで・長ズボン 防寒用ジャケット・雨具
その他 寒い時期にはカイロが役立ちます。また、視力の悪い方は、古いメガネなどを用意しておきましょう。	携帯用カイロ、メガネ

いざ、地震が起こったときにはどのようなものを持ち出せばよいのでしょうか。
今まではあまり気にならなかったことかも知れませんが、今回の地震によって買いそろえた方もいらっしゃると思います。今月号の「広報いざ、地震が起こったときにはどのようなものを持ち出せばよいのでしょうか。」

「つる」の表紙写真は、左の持ち出し品の中から主なものを撮影したものです。ぜひ、左の一覧表と、表紙をご覧ください。 「もしも」の時に備えてください。
ただし、連日報道されているとおり、物資の供給が滞っている状況です。持ち出し品の購入時には、買いだめを控え、必要な分だけを購入するように心がけましょう。

地震の種類とメカニズム

地震は、一般的にプレート境界型(海溝型と直下型)断層型と大きく分けられます。今回の東北地方太平洋沖地震はプレート境界型、阪神・淡路大震災を引き起こした平成7年の兵庫県南部地震は直下型に分類されます。

日本列島は、太平洋プレート・フィリピン海プレート・北米プレート・ユーラシアプレートの4枚があり、このうち太平洋プレートとフィリピン海プレートが北米プレートとユーラシアプレートに年間数cmずつ潜り込んでいます。この際にプレート間にひずみがたまり、このひずみが元に戻ろうとした時にプレート境界型地震が起きます。また、こうしたひずみを、陸地の活断層が吸収しようとした場合には、直下型地震が起きます(下図参照)。

